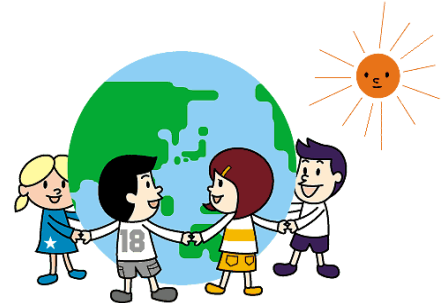


地球温暖化防止活動推進員通信

【第2号：平成22年9月30日発行】

<目次>

1. 特別寄稿
ストップ温暖化センターみやぎ センター長
長谷川 公一 氏
2. わたし(たち)の推進員活動
山崎 義幸さん(4期)
3. 活動 Pick Up (ピックアップ)
4. お知らせ



特別寄稿

推進員以外の方から、推進員の皆様へのメッセージを掲載するコーナーです。今回は、ストップ温暖化センターみやぎの長谷川公一センター長からのメッセージをお届けいたします。

宮城県地球温暖化防止活動推進員のみなさま、推進員としての活動にご尽力いただきありがとうございます。推進員をめぐる状況は昨年11月の事業仕分けを機に大きく変化いたしました。



ストップ温暖化センターみやぎ
センター長 長谷川公一氏

第1は、推進員に関する環境省からの補助事業は、昨年度までのような研修主体のものから、「うちエコ診断事業」に代表されるような、削減効果の「見える化」をより意識したものに変わりつつあります。

第2は、宮城県地球温暖化防止活動推進センター（ストップ温暖化センターみやぎ）のような各地域センターと環境省との間で連絡調整にあたる、全国地球温暖化防止活動推進センター（JCCCA）の活動の見直しがなされ、このセンターの受け皿となる団体が、財団法人日本環境協会から、本年10月1日付けで、一般社団法人地球温暖化防止全国ネット（以下、全国ネットと略記）に代わることです。この全国ネットは、JCCCAの新しい受け皿となることをめざして、宮城県センターのような地域センターが集まって、この8月に新発足しました。いろいろな経緯から、長谷川がこの

全国ネットの理事長に就任いたしました。大変な重責で、身の引き締まる思いです。地域センターの有志で、新法人のあり方をめぐって意見交換をし、半年足らずの間で、無事設立にこぎつけることができました。

事業仕分けは、温暖化防止活動推進センターや推進員に関しては、仕分け人の側の理解不足や思い込みが目立ちました。環境省と関係の深い日本環境協会に対する批判や反発が、仕分け結果を招いたと伝えられています。それが本当だとすると、地域のセンターや推進員は、その飛ばっりにあったようなものです。

しかし事業仕分けの意義を積極的に受け止めれば、推進員の活動が、温室効果ガスの削減にもたらす直接的な効果や種々の事業の意義をどのように社会的に説明できるのかが、より問われる時代を迎えたといえます。

宮城県には通算7期、計120人の推進員がいっぱいます。全国にはこの7月末日現在、7400人の推進員がおります。地域センターも、推進員も、世界に類例をみない日本独自の仕組みです。これからも、県やストップ温暖化センターみやぎ、県内の仲間、全国の仲間たちと協力しながら、ともにがんばってまいりましょう。

わたし(たち)の推進員活動

第一線で活躍されている推進員さんやそのグループに、いろいろと語っていただきます。今回は、角田市を中心に活動をされている、山崎義幸さんに登場していただきました。

山崎 義幸 さん

第4期 角田市

①推進員になろうと思ったきっかけ

私は、定年退職後から現在まで環境マネジメントシステムの仕事に携わっています。環境問題に興味があり、孫の友達を集めて理科の実験などしていました。あるとき市内の大きな公園でキャンドルナイトを行ってみようという個人で計画し協力者・支援者を求めて運動しましたが、全くだれにも相手にもされず、個人活動の難しさで自分の無力さを痛感しました。

翌年推進員制度を知り、応募して現在に至っています。

②委嘱を受けてからまず始めたこと

居住地の市役所担当課に地球温暖化防止活動推進員の委嘱を受けたことを報告し、現在の心境を述べ環境行政への手伝いを申し出ました。

市役所の環境フォーラムの手伝いや、自分の作品をパネル展に展示させて頂いたりしているうちにだんだんと情報の提供も頂ける様になり、活動の場も与えて頂ける様になりました。

地域行政機関との連携が効果的であることを知りました。

③推進員活動を通じて感じたこと学んだこと

“推進員活動”は、ややもすると教える立場にあると錯覚するかもしれませんが、“聞いていただく方がお客様”で、私たちはお客様が何を望んでいるか、又何をお客様に訴えなければならぬかを明確にしないと単なる催しもので終わってしまいます。

時々生活の中にいろいろな工夫を凝らして省エネをおこなっている方がいます。生活の中から自然にわき出してくることが大切で、こちらで教えて頂くことがたくさんありました。

④今最も関心を持っていること

今年の夏の暑さは、全く予想だにできなかった異常な暑さでした。今年だけで終わってしまうのならそれでよいのですが、たぶん来年はもっと厳しくなるのではないのでしょうか。身近に地球の温暖化が急速に進行していると感じます。学者の中にはCO₂が地球温暖化の原因ではないと述べている人達もいます。原因は何であろうと省エネやCO₂削減は大切なことで必要なことだと思います。



⑤ここ最近の活動で印象に残ったこと、イベント

毎年市内の寺で、8月と12月に「キャンドルナイト」を行っています。今年で3年目を迎えます。地域に定着してきました。今夏の特徴は若い人達の来場が多くなり、フリーキャンドルには「環境を大切にしよう」・「地球の温暖化をなくそう」・「ホタルのとびかうふる里に戻そう」などの記入が多くなってきました。ローソクのかもしだす幻想的な情景を見るだけでなく環境啓蒙の行事であることが理解されてきていました。

⑥今後の予定と目標

居住地に密着した活動を展開したいと思っています。子供会や学童保育などへのルートも開けて来ていますので大切に活動したいと思っています。

講演活動は、近隣市町村や県外からも声がかかってきていますので積極的に受け入れたいと思います。何れにしても、泥臭く貧弱であっても自分で体験したこと、自分で確認できたこと、更に実験なども交えて、事実によって理解して頂けますよう工夫していきたいと思っています。

⑦最後に一言

推進員の活動にはいろいろな方法がありますが、個人企業を経営しているのと同じ感覚です。

全てが自分で「企画」・「製造」・「営業」・「販売」です。他人を当てにしたり頼ったりすることなど不可能で無意味です。

人生で培った「企画力」・「営業力」・「行動力」を思い出し実行するのみです。

地道に謙虚に行動していると必ず活動の場が与えられると確信します。



活動 Pick Up (ピックアップ)

皆様から定期的にご提出いただいている活動実績報告から、皆様の取組みをピックアップして、紹介するコーナーです。今回は、平成21年4月～平成22年7月の活動報告の中から紹介いたします。

1. 活動実績報告集計結果

平成22年4月～平成22年7月の活動実績報告の集計結果は、下記のとおりとなりました。

講演会	学習会・イベント企画等	イベント参加 (行政主催)	イベント参加 (団体主催)	普及啓発 (資料配布)	その他	合計
7 (450)	31 (1012)	4 (180)	17 (1577)	25 (268)	200 (2302)	284 (5789)

※ 件数 (人数)

なお、活動実績報告の提出数は、61 / 120名でした。ご協力ありがとうございました。

2. わたしの出会ったこんな出来事

今回は、宮城県地球温暖化防止活動推進ネットワークより届いた報告書から、「北上川へのラブレター」での取組みのひとコマをご紹介します。



(報告書より抜粋)

中心市街地の空き店舗を活用して環境保全啓発活動を推進し、閉じていたシャッターを開封することで中心市街地・商店街に「ダメだっちゃん温暖化」の小さな風を吹かせたい、こんな想いで取り組みました。CO2削減は市民生活部門が停滞済み。この部門での温暖化防止推進活動に寄与すべく商店街の一角に部隊を設け、買い物を楽しんで頂きながら「エコ度チェックから省エネ体験、省エネ診量そして“みやぎe行動宣言”に参加」のマン to マンでの省エネ相談所を開設しました。・・・(中略)商店街のみなさんとの交流が生まれ、地域での省エネへの意識の違いを気付かせていただきました。この経験は今後の活動に活かしていきます。

北上川環境保全啓発プロジェクトの一環として行われたそうで、この取組みの他にも、環境学習会やLEDピカボード制作会、キャンドルナイトなどの取組みが行われ、たくさんの推進員さんが参加されたようです。

わたくしも「環境生活診量所」については、昨年から拝見させていただいております。診断を受ける方と向き合って省エネのアドバイスができるところが魅力ではないでしょうか。「商店街のみなさんとの交流が生まれ、地域での省エネへの意識の違いを気付かせていただきました」というような「気づき」が生まれるのも、人と直接触れ合うことで得られるものなのかもしれません。今後の活動の展開に期待しております。

普段、皆様は温暖化防止活動の中で、どんな人と出会い、どんなことを感じるでしょうか？そんな「気づき」を共有することで、これからの活動のためのヒントが得られるかもしれません。(担当：成田)

お知らせ

地球温暖化防止などに関するお知らせを掲載いたします。

★「みやぎエコモーション2010」募集延長中！！

県では、「みやぎエコモーション2010」の参加者の募集を10月25日まで延長することとなりました。これに参加登録し、10月中の電気使用量削減の取り組みを実施していただくと、県が主催する「自然エネルギー等・省エネルギー大賞」の省エネルギー促進部門に応募することができる仕組みになっております。また、そのCO2削減分をイルミネーションで見える化する「光の貯金」にも参加できます。

推進員の皆様で、まだ登録されていない方はぜひ参加してみたいかがでしょうか？また、この取り組みを、皆さんの手で地域に広めていただければ幸いです。県内の温暖化防止の輪を広げるため、ぜひとも、ご協力をお願いします。

<http://www.pref.miyagi.jp/kankyo-s/syouene/syouene2010.html>

★イベントに出展します！！

秋はイベントの季節ですね。

10月9日には、大崎市民会館において、「おおさき環境フェア」との共催で、「ダメだっちゃ温暖化県民会議県民フォーラム」を開催します。気象キャスターの酒井紀子氏による講演や、酒井氏と伊藤要一氏(平成21年度宮城県自然エネ等省エネ大賞受賞者)の対談形式の講演会(詳細は下記のとおり)を実施するほか、展示コーナーでは、エコバッグ作成コーナーを設けております。また、10日は、石巻市河北総合センターで開催される石巻環境フェアに、エコバッグ作成コーナーを出展いたします。

両日の環境フェアでは、それぞれの地区の推進員さんもブース出展する様です。ぜひ、応援がてら遊びにいらしてはいかがでしょうか？

「ダメだっちゃ温暖化県民フォーラム」講演会

10月9日(土) 13時～14時30分

- ①東北放送気象キャスター 酒井紀子氏 講演「考えよう。地球温暖化・身近にできるエコ」(40分)
- ②酒井紀子氏&伊藤要一氏 対談「温暖化防止のためにできること」(40分)
- ③質問コーナー(10分)

★活動報告について

次の活動実績報告は、12月です。8月から11月までの活動についてご報告願います。

今回のように、皆様の活動が「通信」に掲載されるかも知れません。活動を通じて感じたこと、他の推進員さんにも伝えたいことなども、詳しく教えていただきたいと思っております。

次回の発行は1月を予定しています。

<編集後記>

おかげさまで第2号も発行することができました。ご協力いただいた皆さまには、心から感謝いたします。秋はイベントも多くなり、皆さまもさらにお忙しい日々を迎えていることと思いますが、地域での温暖化防止活動を広げていくチャンスのもありますね。皆さまの活動を「推進員通信」でたくさん紹介できればと思っておりますので、ぜひご報告いただければと思います。(担当：成田)

※感想・ご意見も募集中！メール発信にも御協力を！

ご意見・ご感想はこちらまで

(編集部)

宮城県環境生活部環境政策課

地球環境班

TEL：022-211-2661

FAX：022-211-2669

URL：kankyoe@pref.miyagi.jp



※パンフレット